

OB会報

湘南サッカー部OB会報 第21号 <特集>2002年ワールドカップ

私の体験したW杯

34回 番場 定孝

私の湘南サッカー部時代（昭和31年（34年）は火災に見舞われたり、部員

も少なく、戦績も全く低迷していました。しかし、旧制中学そのままの先輩達がよく現れ、岩淵監督の怒声がグラウンドによく響き渡っていました。そして、大学で活躍した、また五輪にも出場されたOB名選手たちのことをよく聞かされておりました。後々に私が藤沢市サッカー協会の役員に付く時も岩淵先生の推薦でなし、県議から誰かをという時、県サッカー協会副会長を仰せつかったことも、湘南OBの強力なバックアップのおかげと存じます。

こうして実績のない副会長でも各種のイベントのお誘いがあります。今年の6月29日横浜ベイシエラトンホテルでW杯出場32ヶ国大使、決勝関係者歓迎レセプションが開催されました。日本協会の多くの顔が見られ、私たちと一緒にスナップ写真におさまってくださいました。長沼氏、岡野氏、川淵氏

等です。しばらく談笑になり、私は臆面もなく往年の湘南サッカーの話の切りだしました。ところが、お三方からわが先輩達の名前がボンボンと出てくるではありませんか。川淵氏は善行にかつて住まわれていたとか、藤沢の事情も詳しく面食らうばかりで、余り湘南サッカーの威を借りるべきではないと引き下がった次第でありました。

今回のW杯のスタートは、平成5年1月、W杯候補地として横浜を含む15自治体（当時）が決定するときです。横浜市は、その招致委員会を早速立ち上げ、県協会からこの委員に私が送られました。この頃は、いかに招致運動を展開していくか、また横浜国際競技場をどうアピールしていくかでありました。委員会では各年度の事業予算決算を審議し、議決して参りましたが、大会運営の実施主体はJAWOCであり、その横浜支部が諸機関の中心で、支部長として湘南OB（32回）の太田

昇氏が敏腕を振るわれていました。JAWOCの下に横浜市が全庁体制で推進会議・推進プロジェクトを設置、ほとんどの事項、事業がここで取り組まれ、私たちの委員会はこれと連携・支援をしました。その中で10年近く高秀市長の馬力と熱意を肌で感じとっていました。何が何でも成功させなければならぬというその気概に頭が下がったものです。

県議会も本会議や常任委員会、この数年何度となく論議を重ね、昨年は特にテロ防止、フーリガン対策などが提起され、岡崎知事は安全対策には万全を期す姿勢を貫きました。横浜市や関係者から若干の難題もありました。一例ですが、県立保土ヶ谷公園サッカー場は平成10年の神奈川ゆめ国体に合わせて大規模改修を済ませたばかりでした。ところがW杯公式練習会場ともなりますと、ガイドラインがあり、横浜国際競技場の芝と同じものにしなればならないとのことでありました。県の財政状況はご承知の通りですが、せっかくなので芝を取り去り、約6,600万円を投入、アメリカ産の芝に貼り替えました。県当局には感謝ですが、「カーン選手の練習した芝」と利用申し込み倍率が4倍に上がったそうです。

いろいろなことがありましたが、ワールドカップ横浜大会が事故もなく、大成功のうちに無事終了できたことは本当に良かったと思います。ボランテ

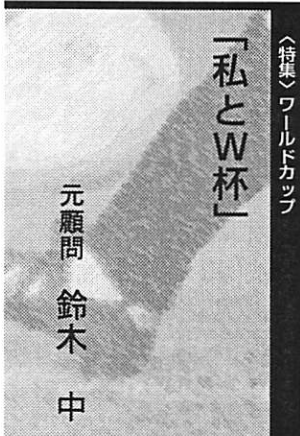
ィアの方々の活躍も目立っていました。カーン選手のドイツチームが保土ヶ谷公園を利用したのは3日間です。24時間体制で県警は警備をしてい

2、サッカーを教える立場から(コーチ) 3、大会を無事終了して(横浜会場・役員として)

1、約4年間準備をして、フランス大会を視察、シドニーオリンピック、ユロ2000観戦、世界の大会の運営

試合の分析をして来たがここでは長くなるので別の機会にしたいと思う。0 B会のホームページにも書いたと思う

3、そして横浜会場の6月9・11・13日の大会運営がスムーズに運ば



「私とW杯」

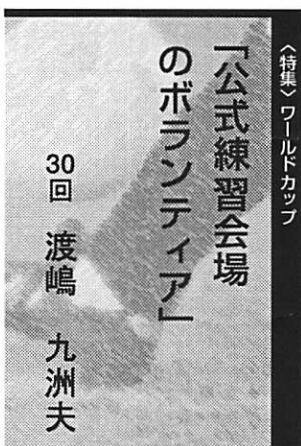
元顧問 鈴木 中

1、仕事としての立場から(神奈川県サッカー協会理事・JAWOC参

静岡で語り合い幸せな時を過ごすことが出来た。素人のサポーターの立場や

心に残る大会となった。最後になるが次ぎの2006年ドイツ大会を是非観

戦したいと思っている。どなたか一緒にしましょう。(神奈川県サッカー協会理事)



「公式練習会場」のボランティア

30回 渡嶋 九洲夫

横浜市内に2002 FIFA World Cup Korea/Japanの公式練習会場が三ツ沢公園・保土ヶ谷公園・なぎさ公園の3箇所に設置され、私は保土ヶ谷公園を担当した。

と対戦したコスタリカの練習と、U-18日本代表とマレーシア(U-18)との練習試合にリハールを兼ねて保土ヶ谷会場に参加し、研修会はこれで終了。5月21日に、新横浜駅のセンターでアクレディテーションカードの発行を受け、横浜国際競技場でボランティア用ユニフォームを支給されボランティアとして正式に登録された。

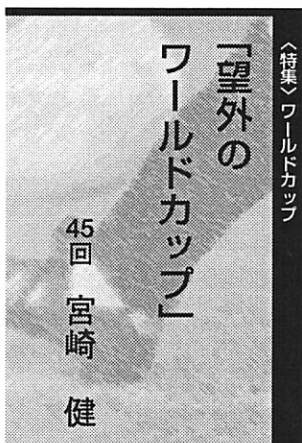
私は公募のボランティアではなく、JAWOCからの指名によるボランティアであった。大会期間中、6月7日〜14日と6月27日〜7月1日の間は自宅待機で拘束され、試合を見に行くことが叶わない状態であった。

ワールドカップの期間中、保土ヶ谷練習会場を使ったのは、ドイツが3日間のみであった。28日はサブのゴールキーパーとキーパトレナーの2人が来場、29日と30日はチーム全員が来場、もちろん、オリバー・カーンの姿を同じピッチ上で見ることが出来た、感激である。30日は翌日の雨の中の決勝戦を想定して、ホテルから、スプリングラーでピッチに散水してくれとの要請が来た。どこで聞きつけたのか、多数のギャラリイが会場の外に集まった。保土ヶ谷公園のサッカー場はFIFA指定の芝に張り替えのため1年間かけて準備した。大会期間中は、練習会場

警備のために3名の警察官が泊まりで警備にあたっていた。

今年は、2002 FIFA World Cup Korea/Japan 終了後の8月にもうひとつのワールドカップとして、2002 INASIF IDサッカー世界選手権大会が、国際的障害者スポーツ連盟の主催により東京・神奈川の16会場で開催され、私は海老名運動公園陸上競技場の会場副責任者として、競技運営と同時にマッチコミッショナーを2試合務めた。5月〜8月にかけて、忙しい日々であった反面、種々の素晴らしい思い出を残すことが出来た。

(神奈川県サッカー協会理事(事務局)として施設を担当)・フットサル委員会委員長・第1種社会人委員会の委員)



「望外のワールドカップ」

45回 宮崎 健

サッカーに再び直接ふれる様になったのは昨年11月23日のFUS交流会だった。勘違いな私は超OBで参加と思

っていたら何と最年少。そこで15年振りに試合に参加させてもらったが、足を掛けられたり体当たりされたり真剣勝負、年寄りの集まりと高をくくつていたが全くの驚愕。技術・体力はともかくやる気が俄然沸いた。

年が明け同期のキーパー山口晴から、休暇を取り易そうな私に連絡があり「W-CUPのボランティアをしないか」という誘いがあった。

2月の採用面接では英語と商社時代の外人アテンドの経験とサッカーの経験と知識を売込んで、厳しい競争を乗り切り、何とかサウジチームのチームエスコート(横浜受け入れ以降送り出しまでチームの世話係をする役目)として合格通知を入手した。(裏で協会理事長の中さんがなんとかしてくれただのか?)

3月からボランティア研修開始。後で判ったが渡嶋先輩も初回の総合研修ではご一緒されていた。予行演習で4月にキリンカップの練習をエスコート、全日本のメンバーを更衣室・グラウンドで間近に見て気分が盛り上がる。

全日本はトルシエばかり元気で若い選手は飼いなされた動物のようで、一番閉鎖的なチームという評判通りであった。

そんなこんなで5月26日、古河マス

ターズに参加していたペガサスを朝日新聞の若い記者が偶然取材。ペガサスでもW-CUPにかかわるメンバーが複数いると知るや私も当日以降徹底取材を受けた。「リストラ親爺が更正会社の手伝いをし、サッカーをやりW-CUPも商社時代の語学力で関わるようになったことに話題性がある」というので朝日新聞の全国版に記事がサウジアラビア・アイルランド戦当日に掲載されたことになった。サウジチームとホテルに宿泊していたが、本番当日朝刊を手にした時はビックリであった。

サウジチームはプリンスに捧げるチームという位置付けで、スケジュールも何もかもプリンスの意向次第で先が読めず、JAWOCや警察も振り回された。パトカーの先導と一緒の車というの中々出来ない経験であったが何とかゲームも無事終了(試合中は控え室でテレビ観戦)。ドーピング検査の選手を待ち、行方不明のチーム関係者を探したりして選手団のバスを競技場から送り出したのは深夜12時を過ぎていた。

6月から公私共にW-CUPモードにクリックした私はテレビは液晶に買い替え、日本戦の日は早退しビールで観戦、横浜では決勝戦も含め4戦全て現場で立ち会い、ボランティア解散式

が終わっても未だ熱が冷めず、仕方ないで次のドイツのW-CUP観戦に気持ちを切り替えた。無報酬で交通費も自己負担というボランティアだったが二度と味わえない経験でした。

特集 ワールドカップ

「ワールドカップが 残したもの・・・」

46回 湯浅 健二

「気が抜けちゃったよ。でもケンジは、日本やドイツが活躍しているから楽しいだろうな・・・」。ワールドカップ会場で再会したフランス人の著名ジャーナリスト、ヴァンサン・マシヌーが、気落ちした表情で言っていた。W杯では、旧知のジャーナリスト連中と旧交を温める機会に恵まれた。ヴァンサンだけではなく、ドイツ人やイタリア人、はたまたブラジル人ライターたちとの深いディベートを楽しんだものだ。

私は、フリーランスとしてプレスIDを取得し、21試合をスタジアム観戦した。メディアも多岐にわたった。サッカーマガジンと週間プレイボーイの連載だけではなく、自身のホームページ

ジャや東京中日新聞では毎日記事を書き、朝日新聞でも土曜版「Be」で、5週にわたり、監督の仕事にスポットを当てた記事連載した。またラジオの文化放送と「JWave」ではほぼ毎日コメントし、時間が許せば、スカパーなどにも出演した。

寝る間を惜しむ毎日。それでも、自分自身がとことん楽しんでいたので、まったく苦にならなかった。日本代表が立派なゲームを展開しただけではなく、私の第二の故郷ともいえるドイツがファイナルまで勝ち進んだ。知人のブルーノ・メツ率いるセネガルが、組織プレーにも長けた初めてのアフリカチームとして素晴らしい世界デビューを飾った。純粹サッカーの興味ばかりではなく、エモーショナルな部分でもワールドカップを堪能したというわけだ。

冒頭のヴァンサンだが、彼は、母国（フランス）が早々と敗退してしまっただことに落胆していた。たしかに今回のW杯では、絶対的な優勝候補といわれたフランスとアルゼンチンがグループリーグで敗れ去るといって大波乱があった。もし彼らが勝ち進んでいたら、W杯の全体的なレベルは格段に上がっていたことだろう。残念で仕方ない。

それでも日本にとっては、大いなる

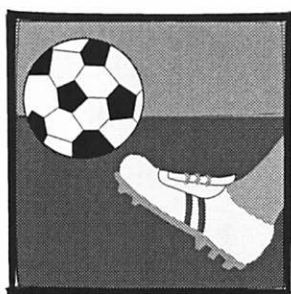
意義があったと思う。それは、外国を相手に立派な闘いを展開した日本代表が、日本社会に勇氣と誇りを与えたこと、そのことを通し、サッカーが、社会的なアイデンティティーにもなり得る存在だということが広く理解されたということにとどまらない。イレギュラーするボールを足で扱うというサッカーは、最終的には、自分主体の判断と決断で、自由にプレーせざるを得ないボールゲームだ。選手たちは、そんな不確実なファクターが複雑に絡み合うフィールド上で、何度もミスを重ねながら、互いのプレーイメージを有機的に連鎖させようという強い意志をもって闘いつづければならない。そんなサッカーのメカニズムは、見えざる手によって、国際化と情報化が進行しつづける現代社会にも通じるものがある・・・。大会後、多くのビジネスマンの方々から、異口同音にそんなことを言われたものだ。

ワールドカップ後の7月。ザールブリュッケンにおいて、ドイツ（プロ）サッカーコーチ連盟主催の国際会議が開催された。ドイツが準優勝したこともあって、参加者は1200人を超えた。世界中から集まった現役プロコーチの猛者連中である。私は、そこで行われたパネルディスカッションに、パ

ネラーとして参加した。そこでは、「W杯は日本にとって意義があったかい？」というコディネーター氏の質問に対し、「もちろん！ 我々の代表チームが社会に勇氣と誇りを与えただけではなく、日本全体が、サッカーが内包する深い魅力を認識する良いきっかけになったからね」などと答えたものだ。

W杯によって、湘南の校技であるサッカーが、日本スポーツのメインストリームに乗りはじめた。とうとう、サッカー好きの報われる時代がやって来た。

（サッカー・ジャーナリスト・・・著「闘うサッカー理論」（三交社）、「サッカー監督という仕事」（新潮社）など。TV、ラジオ出演でも活躍。）



「60歳以上の活動」

30回 中原 弘巳

敬老の日の前日にテレビ東京の全国ネットで「湘南ペガサス60」の試合振りが紹介されました。塩川さんの見事なロングシュートが映し出されました。番組のコメントイターは予想外の動きの早いサッカーに感心していました。最近の元気なお年寄りの活動の一つとしての紹介ですが、年配者のサッカーが盛んになって来ていることが認められ、その代表例として我々のチームに声が掛かったものと思います。多くの湘南OBの方々から引き継がれて来た活動によるものと思います。

60の大会も最近増加しており、60の試合のみでも年間を通してサッカーが楽しめるようになって来ています。特に県外での試合が多く、各地の新しいチームと対戦出来る楽しみがあります。多くの試合が芝生のピッチで行われることも嬉しいことです。県内では今年から試験的に4チームで60雀リーグを始めます。県外では古河の大会に新しく60雀部門が設けられ、3チ

ームの参加でしたが優勝しました。感動&健康リーグ(Gリーグ)に今年から参加しています。関東と清水の7チームで各地で交流会を行っています。7月にはワールドカップ公式練習場用サッカー場に東京、清水を迎えました。皆さんワールドカップの興奮を思い出しながらのプレイだったと思います。

従来からの、全国シニア(Jヴィレッジ)、菅平、刈谷の大会には引き続き参加し、福島ねりんびつく大会にもペガサスの多くのメンバーが参加しました。11月23日のFUSは湘南OBチームとして、50、60での参加ですが、今年も附属、湘南の2校で1日サッカーを満喫しました。50代の新しいメンバーの参加を期待しています。サッカーを中断していた方が再び始める良い機会だと思います。

4月に桑田先輩に誘われて何人かの湘南OBの方々とSOI英国遠征に参加させて頂きました。その時の対戦相手プラット氏は、かつてオックスフォード/ケンブリッジ合同チームの一員として、ウェンブレイ10万観衆の前でFAアマチュア選手権に優勝したそうです。その名門チームの名前が「ペガサス」だったとのこと。日本のブラザーペガサスの存在を喜んでくれました。

湘南ペガサスの命名者は岩淵さんですが、ご存知の上でのことかも知れませんが、

今後も湘南ペガサスを生涯を通してサッカーを楽しめる場として続けることを目標に活動して行きたいと思えます。

試合記録

- *全国シニアサッカー..湘南0-5埼玉、湘南3-0秋田、湘南1-6栃木、湘南1-2静岡、湘南6-0福島。
- *古河マスターズ..湘南1-0水戸古河、湘南1-0YK、60歳以上で優勝。
- *菅平ダイヤモンドエイジ..湘南1-3埼玉、湘南0-1名古屋、湘南3-1岐阜。
- *刈谷スーパーエイジサッカー..湘南4-0YOS、湘南2-1えひめ、湘南1-1関学中央。
- *Gリーグ..千葉、習志野、横浜、埼玉大会に参加。
- *県60雀リーグ..湘南3-3YK、湘南3-1小田原、湘南7-0茅ヶ崎、湘南4-0YK、湘南1-0茅ヶ崎。

「湘南ペガサスシニア」リーグ戦と全国シニア大会を振り返って

37回 牧村 英樹

湘南ペガサスシニアS・Cは全員50歳以上で次の様な状況で構成されています。

40雀リーグのみ参加	3名
50雀60代活動共に参加	12名
50雀リーグのみ参加	3名
60代活動のみ	15名
40-50雀共に参加	24名
通信会員	14名
合計	74名です。

よって、50雀リーグ戦を中心とした活動は実質39名のクラブ員で成されており、試合毎に集まる人数は15-6名-24-5名位が実状です。サッカーを通じた親睦団体である事から、参加者全員が原則として試合に出場すると同時に、一方では当然の事ながら勝負に拘らなければならぬと言った二面性を有しながら運営されていると言ったところ です。

さて、2002年一年間の活動を振り返ってみたいと思います。

年初最初の試合は2月26日に行われた「県議長杯50雀トーナメント」でしたが負ける相手ではない「YK」に0-1と敗戦し、残念ながら一回戦で姿を消す事となってしまいました。初めての大会でもあり、季節はずれということも重なって、しばらくサッカーから離れていたメンバーが急遽集まって臨んだ試合、結果として準備不足が最大の要因であったと反省するところでした。しかし、この初戦の敗戦が結果としてバネとなり、以降の試合の好結果に繋がっていった様な気が致します。

さて、この一年間の最大の成果であり、選手一同の喜びは次の二つに絞られると言えるでしょう。

一つは、なんとと言っても一年間を通しての戦いである「県50雀都市リーグ戦」に負け無しで優勝できた事です。どこのチームもその力が拮抗してきている中、シーズンを通した戦いで、負け無しで優勝を飾れたと言う事は、我がペガサスシニアは他に誇れる立派なクラブチームであると言えるでしょう。特に、優勝を決めた最終戦の対「神奈川」において暴力的とも言える相手チームのプレーに対し負けず劣らずのプレーで対応し2-0で勝利したチームのここの一番のまとまりと精神力

は特筆すべきものと思います。

今一つの快挙は、今年から始まった「シニアサッカー全国大会」我がクラブチームが「郡市選抜チーム」に勝利し、第一回目の神奈川代表となり、関東代表を決めるトーナメントに出場した事であります。神奈川代表とか、関東大会とか、学生時代を彷彿するような経験ができた事は、今迄の県内活動を中心に捉えていたクラブの活動環境が県外そして全国へという新しい土壌に迄広がってきた事を意味する事だと思えます。又、この大会に参加したことから、Wカップ時にカメルーンが合宿した富士吉田のすばらしいグラウンドでプレーできたり、浅倉さんの力添えにより、代表にふさわしくすばらしいホテル（山中湖マウント富士）にほぼ全員が宿泊し、夜は湖畔の焼き肉屋で大いに盛り上がり、一人一人が翌日の決意と戦術を述べ必勝を誓い合ったことは、仲間意識を醸成すると同時にすばらしい思い出として、参加メンバーの心に焼き付いた出来事だったと思えます。試合当日は度々の真夏日炎天下新調した真っ赤なユニフォーム。一試合目、茨城代表「水戸シニア」（水戸シニア十補強組）に3-1の勝利。

次の試合、群馬代表を破った千葉代表、ここに勝てば関東代表となるべき

ところ、残念！前日の飲み過ぎが影響したのか？スタミナ不足もあり、0-2と完敗。いずれにしても、今回の経験は来年度の同大会にきつと活かされる事でありましょう。

あっちこっちと怪我をしながらも楽しかった一年間のクラブ活動は、涉外関係を担当頂いた渡嶋さん、田部井さん、総務を担当頂いた篠田さん、シニア全国大会の対応を頂いた中原さん、そして各種連絡を担当頂いた小杉さんを始め当クラブ関係役員各位の人知れぬお力添えのお陰があったからこそこの場をお借りして御礼申し上げます。

ペガサスシニア 四十雀リーグの活動

45回 浅倉 泰

今年に参加チームの増加に伴い、昨年15チームで運営していた3部リーグをAが9チーム、Bが8チームに分け、ペガサスはAに所属してリーグ戦を戦いました。昨年は4勝9敗1分けで、15チーム中12位と奮わず、四十雀リーグからの撤退も話題になりましたが、

今年4勝3敗1分けと、勝ち越し、善戦したと言つてよいと思えます。昨年は40才代でチームに加わっていた、越智、英両氏をシニアの方に送り出し、代わりに50才で新たにチームに加わった、宮崎氏（45回）、横山氏（45回）、そしてシニアからシニアに移った森氏（46回）、川本氏の新戦力と、40才代は来年50才になるGKの田中氏だけと言うことになり、ほぼ50雀のメンバーと重なってきました。今回のリーグ戦のベストゲームは終盤で3部リーグ1位を走っていた、新規加入の若いチームウィットマスターズ戦です。当日の戦評「前半スウィーパー植田、左サイドバック北原という今期初めての布陣で臨みました。相手は意外に縦へのスピード、寄せの早さがなく、前半はほぼ危なげなく守りきりました。チャンスはむしろペガサスの方に多く、折原のヘディング、川本のシュートなど惜しい、場面がありました。後半風上に立ち、有利な展開が期待されましたが、相手も必死で攻めてきましたが、相手のシュートミスに助けられ、0-0で終了」。ともかく若いチームに一泡吹かせてやろうという、全員のがんばりが一つになり、中盤での相手への当たりも激しく、集中が最後まで切

れずに試合が出来ました。試合終了後の充実感、爽快感が一番強い試合でした。ちなみにこの試合での引き分けが影響して、ウィットマスターズはリーグ戦2位になりました。またこのチームには岸本氏(46回)が在籍しています。今期から加入した宮崎、横山両氏はFUSサッカー交流戦への参加を切っ掛けにして、約30年ぶりにサッカーを再開されました。最初は体力的に厳しいところがあつたようですが、徐々にからだ動くようになり、宮崎氏は藤沢戦で加入初ゴールをあげています。年代の替わり目は新規加入のチャンスです。46回生、47回生あたりで、また始めようかという方がいましたら、ご相談下さい。

スロースターターの癖が抜けず、スタートでつまずき、それが最後まで尾を引き、6位という結果になった(11月15日現在)。

1部から降格したあたりから、若手の導入を積極的に図り、チームの再編成を試みているが、リーグ戦3連敗をした時点で、チーム内で不満が爆発し、試合後少し長いミーティングを持った。そこで現在のチーム状況を分析し、また、若手からベテランへの不満・要求等をじっくり聞き、それに応えていく事でだんだんとチームの調子も向上して行つたように思う。

「トトカルチヨ湘南
活動報告」

64回 羽田 伸一

神奈川県リーグ1部転落からはや3年目。昨年は最初の負けを良く取り返して後半巻き返したが、詰めが甘く、4位に甘んじた。今年こそはと意気込んで臨んだリーグ戦だったが、やはり

現在のチームは高校を卒業したばかりの10代から、社会人10年目程度の30代前半まで幅広い年代でプレイしているが、さすがに30代のメンバーは体力の衰えが隠せず、世代交代が急がれる。今年の新戦力としては、高校を卒業して1・2年の肥後・星・藤巻・竹下の他、今でも1500mを4分台で走ると豪語する田中敦さん(62年卒・主将)、ドイツ勤務から日本に戻つて来た、全国大会時のレギュラーメンバー善木(64年卒)が入り、ディフェンス面は安定してきた感がある。攻撃面においても、若手が入ることにより幅の広い攻撃ができるようになった。後はもともと力のある若手がさらに経験を

積んで成長し、ベテランが若手との意識を良く合わせて、チームとしていかに機能するかが、これからの課題ではないだろうか。

今後は我々より若いメンバーで構成される藤沢市リーグ1部に在籍中の湘南クラブともより交流を図ってチームを充実させ、そして来年こそは県1部復帰を果たしたい。いつまでも2部に居続けては、そこまでの力に落ちついてしまう。天皇杯予選においては今年も大学生を破るなど、力は確かにあるので、その力をリーグ戦全体を通じて遺憾なく発揮して行きたい。

「湘南クラブ活動報告
〜5人目の呪縛〜」

71回 歌野 寧

何とも悠長な運営の賜物と言いますか、師走に首を突っ込もうかというこの時期にも拘らず(これを記している現在は11月中旬です)、今年度われら湘南クラブのリーグ戦は、7試合中消化したのは僅か3試合。そして、その他日程的な理由により、残りの4試合はすべて年度末の3月に行われるとの

こと。チーム内から、「次のリーグはいつ?」との声が上がってくるのも無理のない状態であります。そのため、何だかりリーグへの集中力も弛緩気味、目の前の目標を見つけづらい日々が続いています。

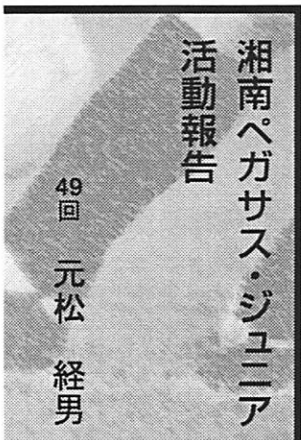
そんな中、現在チームを席卷している話題といえば、PK戦。夏に行われた市民総体の準決勝、そして現在行われている社会人選手権大会の1回戦で、ともにPK戦までもつれ込み、その両方のケースで決めれば勝ちの5人目で外している、というのがその理由であります。ちなみに、その5人目のキッカーは同一人物ではありません、彼らの名譽(?)のために。

ついでにその先の結果はというと、前者のほうは敗戦、後者のほうはサドネスの末の勝利となっています。ともかくにも、5人目のキッカーを決めるのが、現状の最大の課題となっているのです。冗談のように響きますが、とても切実に、です。

更に付け加えるなら、前述の市民総体2回戦では、試合中に2本のPKを外しての勝利、などという何とも縮まらない記録も残っています。こちらにも、蹴ったのは同一人物ではなかったことを付け加えておきましょう。試合自体の結果が2-1での勝利であったと言

えば、そのネットを揺することのなかった2つのPKが、いかに貴重なものであったかがお分かりいただけると思像します。

あまりサッカー人生の中でも蹴ることの多くないPKという代物ですが、その奥深さ、そしてその興味深さというものをひしひしと感じながらの最近の活動となっております。次は一体誰が5番目にスポットに向かうのでしょうか？



湘南ペガサス・ジュニア 活動報告

49回 元松 経男

昨年までの主力メンバーが数人卒業されて、チームの若返りを図りたいところでしたが、思うように新人が試合に参加できず、一試合平均で15名前後の参加者で今年のシーズンを過ごしました。

ここ数年の悩みは湘南OBの参加が少なく、他のチームやメンバーの紹介で参加していただいた方に頼りがちなことです。また、昨年まで一人三役でチームを纏めてこられた関さんから、代

表を石郷岡(51回)が、監督を元松が引き継ぎ(マネージャーは関さんが継続)、会計や審判部長その他の役割もなるべく分散させて、一人の負担を軽くすることで、より多くの方が参加しやすいチームとしたいと思いシーズンに臨みました。

昨年末に県四十雀リーグで2部落ちし、今シーズンは早期一部復帰を目指してのスタートでしたが、思うようにゲームをつくることができず、昨年の得点力不足をそのまま引きずってしまい、前半戦を一勝もできないままに終わりました。ワールドカップ明けの後半戦も1勝することがなかなかできずに、最終戦まで息の抜けない戦いが続くこととなり、何とか最後に2連勝して2部残留が決まりました。最終結果は2勝7敗2分、勝ち点8、得点7失点20で、12チーム中10位と不甲斐ない内容となりましたが、来年への肥やしとして、心機一転新たなシーズンへ向けて再出発したいと思います。

リーグ戦以外で恒例化した他の試合では楽しいゲームも多々ありました。遠隔地に住まわれていたり地元ของทีมに所属していたりと、様々な理由でペガサスに所属していない方々の中にも、蹴球祭や筑波大附属定期戦、御殿場マスターズ等々の試合には参加して

いただく準メンバーも大事な仲間です。

1月の80周年蹴球祭では、今年40歳になる水上君(56回)にやたらと声がかかっていました。(めでたくこの12月にジュニアチームに正式参加です)

3月の附属戦は湘南グラウンドにTVKテレビの取材まで来て、中年サッカーマンの姿をおいかけしていました。Fさんはカメラを意識して、随分と張り切っていつになくゴールを狙っていたようです。

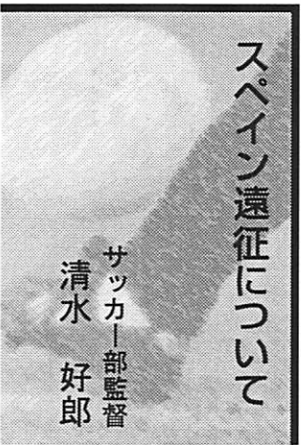
6月の古河マスターズは参加者が揃わずに不参加となりましたが、代わりに恒例化した10月の御殿場マスターズは、シニアからの応援参加もあり、和気あいあいの遠征となりました。

町二サッカークラブ、ジェネス山梨、西国パパス、FC羽村との試合は富士山麓の天然芝(1日目は人工芝)で思う存分走り回り、結果は1勝1敗2引き分けでした。試合後の「時の栖」の温泉と地ビールレストラン「麦畑」の御殿場ビールとバイキング、そして何かブラジリアン・ミュージックを堪能して今年の主要試合を終了しました。

苦しいゲームが続く間、HPで苦言を呈していただいたり、何度も応援に

駆けつけていただいたシニアチームのみなさん本当にありがとうございます。新シーズンには新チームにあった戦術と得意な得点シーンを是非創って臨みたいと思います。また、40歳になって再びサッカーを始めたくなったOBの皆さん、湘南のサッカーを思い出して是非一緒にボールを蹴りましょう。

参加ご希望の方は元松(0467-22-2968)までご連絡下さい。



スペイン遠征について

サッカー部監督 清水 好郎

今年度は関東、総体、選手権と満足な成績を上げられず、OB各位の期待にこたえることが出来ず申し訳なく思っています。

春先から、攻守のバランスが上手く取れず、チームをまとめることが出来ませんでした。私も個人的にチーム離れることが多くありました。

3月は日本協会の研修でスペインのビルバオに8日間、6月にはW・Cで2週間ほど学校を離れ、選手には迷惑

をかけてしまいました。

スペインの研修ついて少し記してみたいと思います

バスケット地方のアスレチックビルパオは、選手はバスケット人だけのチームで民族の誇りを持ったクラブです。施設、育成、クラブ経営について研修をしてきました。

施設は牧場の段々畑のように8面の天然芝と人工芝、クラブハウス、体育館(人工芝)とすばらしい施設でした。

育成は11才から2才刻みでカテゴリー

が分かれてトレーニングが行われています。コーチングスタッフの質疑応答の中で「11才の子供達が正確にボールが蹴れるのにはキックのプログラムはあるのか」と私が質問すると「キックは親と共に小さいときから蹴っている

るので、特別なプログラムはない、足全体でボールを扱うことは常に行っている」日本では考えられない答えが返ってきた。11〜12歳の子供達が5号ボールを正確に(湘南生より正確に)蹴りスピード、質、タイミングは見事でした。

3月下旬はスペインでは大会が多く開かれており、日本から6チーム来ていました。

アットホームな雰囲気ですサッカーを観戦していました。生活の中にサッカー

1が根付いています。こんな世界を生徒に味あわせたいと思っていました。

帰国後、スペイン ビルパオ遠征の企画に入りました。

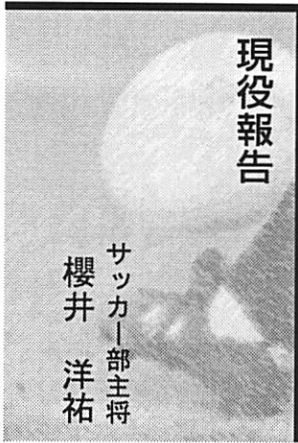
11月末現在父兄の承諾を取り、2003年3月26日〜4月4日の予定で

年明けには、細かい日程が発表が出来ると思います。県内大会で、あまりいい成績を上げられない中で海外遠征とは、ちよつと贅沢かと思われませんが計画してみました。

サッカーの根付いている世界で生活することにより、基本を学び、考え方を学び、今後の生かしてもらいたいと思います。

OB各位の御理解、協力の程よろしくお願い申し上げます。

現役報告



サッカー部主将
櫻井 洋祐

現在、1年生16名、2年生16名、マネージャー3名の合計35名で活動しています。

すばらしい施設や他の部活からの理

解、そしてOBの方々の温かい支援に支えられて毎日大好きなサッカーを思う存分する事が出来でき、素晴らしい日々を送っています。

今年には選手権に残った3年生はグラドマネージャーを含めて3人ということでも色々苦労することがありましたが、その分他のチームに比べて一人一人が良い経験ができて良かったと思います。今年のチームはとても明るく、厳しく素晴らしいチームです。練習のない日でもグラドの空いている場所を見つけて練習しています。

1年生は真面目で、グラド整備等チームの為に頑張っています。2年生は個人個人がしっかりと意見持ち、お互いに妥協せず厳しい姿勢で練習に学校生活に望んでいます。また、マネージャーはユニホームなど備品管理、医薬品の管理、日程調整などに頑張ってくれていてとても感謝しています。

清水先生、岩田先生のもとでサッカーが出来るのは本当に幸せです。先生方に与えられた課題を一つ一つ確実にこなすことにより全国大会の道が開けてくると思います。

一日一日を大切に、各自の技術を高めるためにお互いに妥協をせずに頑張りたいと思います。それが、このチームは出来ると信じています。

そして素晴らしいチームになると信じています。今、出来ることを精一杯張り、全国大会を目指します。

最後になりますが、いつも陰で支えていただいているOBの方々には本当に感謝しております。今後も応援をよろしく申し上げます。

2002年公式戦の結果

関東大会予選

1回戦 0対1 東海大相模

高校総体

1回戦 1対0 横浜

2回戦 1対0 有馬

3回戦 0対1 保土ヶ谷

高校選手権

1回戦 2対0 上郷

2回戦 5対6 横浜南

新人戦

湘南地区大会(リーグ戦)

3対0 藤沢翔嶺

3対0 湘南学園

0対1 茅ヶ崎西浜

2対0 藤嶺藤沢

リーグ戦2位

県大会出場決定戦

2対0 慶応藤沢

代表権獲得

(県大会)1月18日会場湘南

< 15 年度会費納入の件 >

14 年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしくお願いいたします。社会人の方は、できましたら2口以上の寄付をお願いいたします。

・社会人 1口 5,000円
 ・学生 1口 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるようお願いいたします。なお、下記銀行口座も受け付けていますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金
 口座番号 019166
 湘南高校サッカー部OB会
 武藤俊一 tel.0466-34-9329

< 平成 14 年度会計報告 >

< 収 入 >

会費・寄付	1,166,000
小田原高校	50,000
繰り越し	48,948
利 子	155
計	1,265,103

< 支 出 >

現役寄付	250,000
蹴球祭	227,922
遠征補助 (OB)	150,000
筑波大付属戦補助	30,000
小田原高校へ (お車代)	30,000
通信・事務費	216,000
印刷費	336,000
慶弔費	10,000
通帳残	15,181
計	1,265,103

< 平成 15 年度湘南サッカーOB会予算案 >

< 収 入 見 込 み >

150 名 (社会人 140 名, 学生 10 名)

$$90 \times 10,000 + 50 \times 5,000 + 10 \times 3,000 = 1,180,000$$

繰り越し金	15,103
計	1,195,103

< 支 出 >

現役寄付	400,000
遠征補助	150,000
印刷費	220,000
通信・事務費	200,000
蹴球祭・夏合宿	170,000
付属定期戦補助	30,000
予備費	25,103
計	1,195,103

[蹴球祭・総会のご案内] 期日: 1月12日(日) 場所: 湘南高校(グラウンド、清明会館)

10:00~10:45	幹事会: 清明会館/和室
11:00~11:30	総会: 清明会館研修室 10~15分時間が延びても対応可能
11:30~12:20	着替えとアップ
12:20~12:30	現役OB交歓会(於:グラウンド)
12:30~14:30	40代、50代、60代試合
14:30~16:30	若手OB試合

なお現役(对小田原高校練習試合)は

9:00~10:30 B戦 10:30~12:00 A戦

- * 本部受付はグラウンド横の1ヶ所とします。テント1張り。(坂上は案内のみ)
- 本部に会長、事務局、鈴木先生がいるようにします。必ず立寄ってもらい、そこで新年の挨拶をします。
- * 受付は総会終了後12:00から開設。会費収納と引き換えに弁当を配付。試合終わった方に声かけする。
- 12:00~14:30は若手OB
- 14:30~15:30は40代が交代で受付
- * グラウンドは1面使用

[編集後記]

事務局で広報と行事を担当の関です。OB会報の編集は、A版になった95年度(14号)の変則版から8号やらせていただきました。この間、お忙しい時期に原稿を引き受けていただいた皆様にお礼を申し上げます。また、集めてきた原稿の実際の編集処理をしていただいた相羽さん、住所録の管理や湘南高校の現役と一緒に配送を行っている武藤さん、須藤さんにも改めて感謝します。

さて、私事で恐縮ですが、2003年度と2004年度が勤務先の移転

などがあり、OB会やチームの事務をやるのが困難です。大変勝手を申し上げますが、しばらく、事務局を休ませていただきたいと思います。ベガサス・ジュニアの幹事は引継体制ができました。OB会事務局については未定です。今いるメンバーでできる範囲でやることも可能だと思いますが、新たに、参加していただける方は、是非、よろしく願います。 48回 関 佳史

[ホームページアドレス]

神奈川県サッカー協会 <http://www.kanagawa-fa.gr.jp/>
 湘南ベガサス・ジュニア <http://www.cityfujisawa.ne.jp/~y.asa/>
 湯浅健二 <http://www.axisinc.co.jp/yuasa.html>

[メールアドレス]

鈴木中 先生 fwng6921@mb.jnfoweb.ne.jp
 武藤俊一 (事務局) m9329@cityfujisawa.ne.jp
 関 佳史 (事務局) seki@fancy.ocn.ne.jp

※ HP アドレス掲載をご希望の方は、お申し付けください。来年度より掲載いたします。